



Hyper-V用にSnapManager を設定します

SnapManager for Hyper-V

NetApp
October 04, 2023

目次

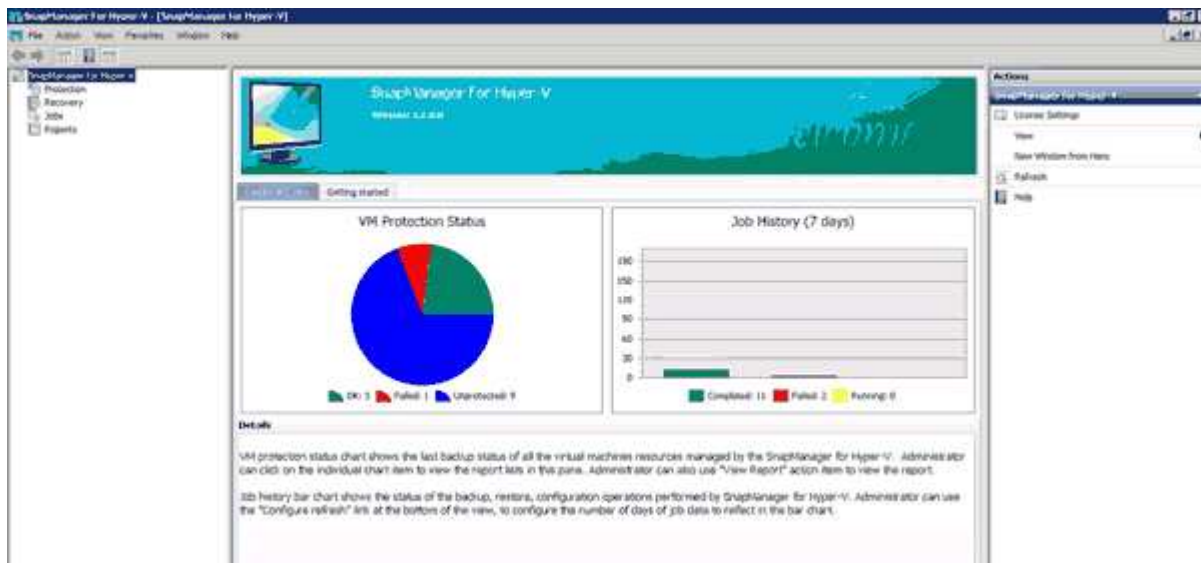
Hyper-V用にSnapManager を設定します	1
ダッシュボードの設定	1
ホストを設定	2
SnapInfoディレクトリを設定します	7
データセットを設定する	9
ポリシーを設定する	12
Hyper-V over SMB用のSVMまたはCIFSサーバを設定	16

Hyper-V用にSnapManagerを設定します

SnapManager for Hyper-Vをインストールしたら、データを保護およびリストアするポリシーを追加して、ホストと仮想マシンを設定および管理できます。

ダッシュボードの設定

SnapManager for Hyper-Vダッシュボードには、現在保護されているリソースと保護されていないリソースの概要が表示されます。VM保護ステータス円グラフまたはジョブ履歴バーグラフの各セグメントを選択すると、ジョブ、リソース、および履歴のステータスに関する一般的な情報を確認できます。



• * VM保護ステータス*

VM保護ステータス円グラフでセグメントを選択すると、仮想マシンの保護ステータスに関する情報が詳細ペインに表示されます。有効な値の説明は次のとおりです。

◦ * OK *

すべての仮想マシンの最新の正常なバックアップを表示します。

◦ 失敗

各仮想マシンの最新の失敗したバックアップを表示します。

◦ 保護されていない

どのデータセットにも属さず、保護されていない仮想マシンを表示します。

• ジョブ履歴

ジョブ履歴バーグラフでセグメントを選択すると、[詳細] ペインに、指定した期間に完了したジョブ、失敗したジョブ、実行中のジョブの履歴を表示できます。ジョブ履歴バーのグラフにジョブの詳細を表示

する期間を変更できます。デフォルト値は7日です。

- 更新を設定

表示される情報をダッシュボードが更新する頻度を変更するには、*更新の設定*ボタンを使用します。デフォルト値は10分です。

ホストを設定

Hyper-V親ホストまたはクラスタの追加、表示、削除には、SnapManager for Hyper-Vを使用します

Hyper-V親ホストまたはホストクラスタを追加する場合の要件

SnapManager for Hyper-Vに親ホストまたはホストクラスタを追加する前に、必要な設定情報がすべて揃っている必要があります

SnapManager for Hyper-Vのインストール

追加するHyper-VホストにSnapManager for Hyper-Vがインストールされている必要があります。

Hyper-V用のSnapManager がインストールされていない場合は、リモートホストインストールウィザードを実行するように求められます。各クラスタノードには、同じバージョンのHyper-V用SnapManager をインストールする必要があります。

構成設定

追加するHyper-V親ホストがHyper-VのSnapManager 用に設定されている必要があります

SnapManager for Hyper-Vに対してSnapInfoの設定、レポートディレクトリの設定、通知の設定が行われていない場合は、ホストの追加後に設定ウィザードを使用して設定できます。

最初は、[ストレージ接続の管理]タブが空です。ストレージ接続は、「*ストレージ接続の管理」タブから追加できますが、新しく追加した接続は、SnapDrive for Windows (SDW) のトランスポートプロトコル設定 (TPS) で確認できます。

SnapManager for Hyper-Vを使用して仮想マシンを追加および管理するには、バックアップリポジトリとレポートディレクトリを設定する必要があります通知設定はオプションです。

仮想マシンとONTAP LUN

構成ファイル、Snapshotコピーのファイルの場所、VHDなど、仮想マシンに関連付けられたすべてのファイルは、ONTAP LUN上に存在する必要があります。

この手順は、バックアップを正常に実行するために必要です。



仮想マシンの作成後に仮想マシンのSnapshotファイルの場所を別のONTAP LUNに変更した場合は、Hyper-Vマネージャを使用して仮想マシンのSnapshotコピーを少なくとも1つ作成してから、SnapManager for Hyper-Vを使用してバックアップを作成してください。Snapshotコピーファイルの場所を変更した場合、バックアップを作成する前に仮想マシンのSnapshotコピーを作成しないと、バックアップ処理が失敗することがあります。

専用およびクラスタ化された仮想マシン

仮想マシンは、専用またはクラスタの一部として使用できます。

ホストを1つ追加すると、そのホストの専用仮想マシンはSnapManager for Hyper-Vによって管理されます。ホストクラスタを追加すると、SnapManager for Hyper-Vはホストクラスタ上の共有仮想マシンを管理します。SANおよびNAS上の同じホストクラスタに属する仮想マシンは、同じデータセット内に存在しないようにする必要があります。これらのタイプ原因のリソースを単一のデータセットに追加すると、データセットのバックアップが失敗する可能性があります。

アプリケーションと整合性のあるバックアップでは、クラスタ化された仮想マシンをクラスタの別のノードで実行する場合、クラスタ化された仮想マシンのデータセットバックアップの完了に時間がかかります。仮想マシンを異なるノード上で実行する場合は、クラスタ内のノードごとに個別のバックアップ処理が必要です。すべての仮想マシンを同じノードで実行する場合は、バックアップ処理が1回だけで済み、バックアップにかかる時間が短縮されます。

仮想マシンの数

Hyper-Vホストまたはホストクラスタに1,000台を超える仮想マシンがある場合は、Hyper-Vキャッシュマネージャ用のSnapMgrServiceHost.exe.configファイル内のScavengingプロパティの前に、Cache内の最大エレメント数の値を増やす必要があります。この値は、スタンドアロンのホストまたはクラスタで実行されているHyper-Vホストの数以上にする必要があります。クラスタの各ノードの値を変更してから、この値を変更した後にSnapManager for Hyper-Vサービスを再起動する必要があります。テキストエディタを使用して'SnapMgrServiceHost.exe.config'ファイルを手動で編集する必要があります。

```
<cacheManagers>
...
    <add name="HyperV Cache Manager"

type="Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.Caching.CacheManager,
        Microsoft.Practices.EnterpriseLibrary.Caching"
        expirationPollFrequencyInSeconds="60"
        maximumElementsInCacheBeforeScavenging="1200"
        numberToRemoveWhenScavenging="10"
        backingStoreName="inMemory" />
...
</cacheManagers>
```

SnapManager for Hyper-Vのサービスアカウントの要件

SnapManager for Hyper-Vを使用してHyper-Vホストクラスタを管理する場合、Hyper-VおよびSnapDrive for WindowsのサービスアカウントのSnapManagerは、サーバに対するローカル管理者権限を持つドメインユーザアカウントである必要があります。

SnapManager for Hyper-Vアプリケーションと整合性のあるバックアップは、仮想マシンが実行されているクラスタノードで実行されます。仮想マシンが使用するクラスタ共有ボリューム（CSV）が同じノードに所有されていないと、SnapManager for Hyper-Vサービスがローカルシステムアカウントを使用している場合（アカウントに管理者権限がある場合でも）仮想マシンのバックアップが失敗することがあります。この場合、SnapManager for Hyper-Vは、仮想マシンファイルがCSV上にあることを検出できないため、バックアップは失敗します。



clustered Data ONTAP のSMB 3.0の継続的可用性（CA）共有に格納された仮想マシンを使用したリモートのVolume Shadow Copy Service（VSS；ボリュームシャドウコピーサービス）処理が正常に機能するためには、SnapDrive for Windowsサービスアカウントには、共有に対するフルコントロール権限を付与し、SnapManager for Hyper-V Webサービスアカウントへの最小限の読み取りレベルアクセスを付与する必要があります。

• 関連情報 *

["Microsoft TechNet：「Hyper-V」"](#)

Hyper-V親ホストまたはホストクラスタを追加

Hyper-V親ホストまたはホストクラスタを追加して、仮想マシンのバックアップとリストアを行うことができます。

手順

1. ナビゲーションペインで、*保護*をクリックします。
2. アクションペインで、*ホストの追加*をクリックします。
3. ホストの追加ウィザードを実行します。

完了後

ホストをクラスタに追加しても、新しいホストに関する情報はGUIに自動的に表示されません。インストーラディレクトリのXMLファイルにホスト情報を手動で追加します。

SnapManager for Hyper-Vが各クラスタノードにインストールされている必要があります。Hyper-V用のSnapManager がインストールされていない場合は、リモートホストインストールウィザードを実行するように求められます。

ストレージ接続の設定を管理します

ホストを追加したら、メニューから「ストレージ接続の管理」を使用するためのすべてのストレージ接続（Windowsの場合はSnapDrive、Hyper-Vの場合はSnapManager）を入力する必要があります。保護[データセットの管理]。

必要なもの

ストレージ接続の設定を管理するには、少なくとも1つのホストをHyper-VのSnapManager に追加しておく必要があります。

手順

1. [データセット管理]メニューから[ストレージ接続の管理]を選択します。
2. ストレージ接続を追加します。

すべてのストレージ接続は、SnapDrive for Windows TPSで表示できます。

Hyper-V親ホストまたはホストクラスタを表示する

特定のHyper-V親ホストまたはホストクラスタに関する設定情報を表示して、ステータスを監視することができます。

手順

1. ナビゲーションペインで、[Menu](メニュー)、[Hosts](ホスト保護)の順にクリックします。
2. 表示するホストまたはホストクラスタを選択します。

[Details]ペインには、ホストまたはホストクラスタ名、ドメイン、クラスタメンバー（該当する場合）、およびコンフィギュレーションメッセージが表示されます。構成されていないホストを選択すると、[Details]ペインに設定されていないホストに関する情報が表示されます。

仮想マシンを表示します

仮想マシンの[詳細]ペインの[仮想マシン]タブおよび[VHD]タブでは、そのマシンに関する情報を表示し、そのマシンのステータスを監視できます。

手順

1. ナビゲーションペインで、[メニュー:保護[ホスト]>[保護]>[データセット]の順にクリックします。
2. 仮想マシンが属するデータセットまたはホストを選択します。
3. 適切な仮想マシンを選択します。

結果

[仮想マシン]タブには、選択した仮想マシンの名前、GUID、および状態が表示されます。

VHDタブには、システムディスク、マウントポイント、VHDのフルパス、LUNパス、ストレージシステム名、選択した仮想マシンに関連付けられているシリアル番号とボリューム名。

Hyper-Vの処理に使用するSnapManager用のHyper-V仮想マシンを移行する

SnapManager for Hyper-Vには、SnapManager for Hyper-Vで使用できるように、ONTAP以外のストレージからONTAPストレージに仮想マシン（VM）を移行するための移行ウィザードはありません代わりに、Server Managerを使用してVMを手動でエクスポートおよびインポートする必要があります。

ホストとデータセットの設定情報をインポートまたはエクスポートします

ホストを管理する管理コンソールは1つに限定する必要がありますが、複数のコンソールから管理する必要がある場合は、ホストおよびデータセットの構成情報を1つのリモート管理コンソールから別のリモート管理コンソールにインポートしてエクスポートすることで、データの整合性を確保できます。

このタスクについて

SnapManager for Hyper-Vがインストールされているディレクトリには、設定情報をインポートしたりエクスポートしたりしないでください。SnapManager for Hyper-Vをアンインストールすると、このファイルは失われます。



インポートとエクスポートウィザードを使用して、ホストとデータセットの設定を以前にエクスポートした設定に変更することができます。クラスタ環境でこの処理を実行する場合は、クラスタ内のすべてのノードで設定をインポートして、すべてのホストとデータセットの構成が同じになるようにする必要があります。

手順

1. ナビゲーションペインで、*保護*をクリックします。
2. [アクション (* Actions)]パネルで、[*インポートおよびエクスポート (* Import and export *)]をインポートとエクスポートウィザードが表示されます。
3. ウィザードの手順に従って、ホストとデータセットの構成情報のある管理コンソールから別の管理コンソールにエクスポートします。



エクスポートファイルは、そのエクスポートファイルが実行された時点でのみ静的で最新のものであります。

4. ウィザードの手順に従って、ホストとデータセットの設定情報をデスティネーション管理コンソールにインポートします。

Hyper-V親ホストまたは親ホストクラスタを削除

Hyper-V親ホストまたは親ホストクラスタがHyper-VでSnapManager を使用して管理する必要がなくなった場合は、そのホストクラスタを削除することができます

手順

1. ナビゲーションペインで、[Menu](メニュー)、[Hosts](ホスト保護)の順にクリックします。
2. 削除するホストまたはホストクラスタを選択します。
3. [アクション (* Actions)]パネルで、[*削除 (Remove)]をクリックします

[Delete all VM backups]を選択すると、ホストに関連付けられた仮想マシンのバックアップを削除できます。

Hyper-Vの管理のためにHyper-Vの親ホストまたはホストクラスタがSnapManager から削除されることはありますが、完全には削除されません。そのホストまたはホストクラスタに属する仮想マシンも、それらが属していたすべてのデータセットから削除されます。

イベント通知設定

イベントが発生した場合にEメール、syslog、およびAutoSupport メッセージを送信するようにイベント通知を設定できます。

Hyper-V親ホストをSnapManager for Hyper-Vに追加したときにイベント通知設定が設定されていない場合は、あとで設定ウィザードを使用して設定できます。

イベント通知の設定は、Hyper-V用にSnapManager にホストを追加したあとでも、設定ウィザードを使用して変更できます

データセットに仮想マシンリソースを追加する前に、イベント通知を設定できます。

E メール通知を設定

通知の複数のEメール受信者は、カンマで区切る必要があります。

SnapManager for Hyper-VでEメール通知の受信者を複数設定する場合は、各受信者をカンマで区切ります。この要件は、SnapManager for SQLとは異なります。SQLでは、各Eメール通知の受信者をセミコロンで区切る必要があります。

レポートパスの設定

SnapManager for Hyper-Vの処理に関するレポートを格納できるように、レポートパスを設定することができます。データセットに仮想マシンリソースを追加する前に、レポートパスを設定する必要があります。

Hyper-V親ホストをSnapManager for Hyper-Vに追加したときにレポート設定が行われない場合は、あとから設定ウィザードを使用して設定（および変更）できます。

親ホストクラスタのレポートパスを設定する場合は、各クラスタノードにレポートディレクトリを手動で作成する必要があります。レポートパスを、Cluster Shared Volume（CSV；クラスタ共有ボリューム）または共有LUNに配置することはできません。

- 関連情報 *

["Microsoft TechNet：「フェールオーバークラスタでクラスタの共有ボリュームを使用する」](#)

SnapInfoディレクトリを設定します

ホスト内の仮想マシンリソースをデータセットに追加するには、そのホストにSnapInfoを設定する必要があります。Hyper-VホストをSnapManager for Hyper-Vに追加したときにSnapInfoが設定されていない場合は、あとで設定ウィザードまたは* SnapInfo設定*アクションを使用して設定できます。

また、Hyper-V用にSnapManager にホストを追加したあとに、SnapInfo設定を変更することもできますただし、SnapInfo設定を変更した場合は、すべてのファイルを新しい場所に手動で移動する必要があります。SnapManager for Hyper-Vでは自動的に更新されません。ファイルを移動しないと、バックアップコピーからのリストアや管理はできず、SnapManager for Hyper-Vはバックアップコピーのリストを表示しません。

SnapManager for Hyper-V以降では、SnapInfoパスをCluster Shared Volume（CSV；クラスタ共有ボリューム）上に配置することも、Windows Server 2012用のSMB共有上に配置することもできます。

- 関連情報 *

SnapInfo LUNをセットアップします

データセットバックアップメタデータを格納するには、Hyper-V用のSnapManagerにSnapInfo LUNを追加する必要があります。SnapInfoパスは、ONTAP LUN上に実装する必要があります。これは、SnapManager for Hyper-Vが通常のバックアップの実行後にSnapInfoコピーのバックアップを作成するためです。

必要なもの

SnapInfoパスは、Windows Server 2012クラスタを実行している場合は、Cluster Shared Volume (CSV；クラスタ共有ボリューム) に配置できます。専用の仮想マシンを管理する場合は、SnapInfoを専用のONTAP LUNに配置する必要があります。共有仮想マシンを管理する場合は、SnapInfoを共有のONTAP LUNに実装します。

手順

1. SnapDrive for Windowsを使用して、新しい共有ディスクを作成します。
 - a. Microsoft Cluster Services Group (Microsoftクラスタサービスグループ) を選択するオプションを指定する場合は、* Create a new cluster group. (新しいクラスタグループを作成する) を選択します
 - b. グループに「SMHV SnapInfo」という名前を付け、プロセスを完了します。
2. Windowsフェールオーバークラスタリング (WFC) を開き、新しいグループがオンラインになっていることを確認します。
3. クラスタ内の各ノードにSnapManager for Hyper-Vをインストールします。
4. *設定ウィザードを実行し、クラスタ内のすべてのノードにSnapInfo設定を適用します。
 - a. いずれかのホストを選択します。
 - b. [ナビゲーション]ウィンドウ枠で、[メニュー：保護[ホスト]]をクリックします。
 - c. 操作ウィンドウで、*環境設定*ウィザードを実行します。
 - d. 新しく作成したLUNにSnapInfo設定を適用します。

結果

設定ウィザードを実行すると、SnapInfoの設定がクラスタ内のすべてのノードにレプリケートされます。* 関連情報 *

エラー：SnapDrive SDDiscoveryFileSystemListInfo応答がNULLです

SnapInfoディレクトリパスを変更します

SnapInfoディレクトリパス設定は、設定ウィザードまたは* SnapInfo設定*アクションを使用して制御できます。

このタスクについて

SnapInfoディレクトリ設定は、Hyper-VのSnapManagerのホストレベルで指定されます。SnapManager for Hyper-Vは、NAS (SMB) ホストとSANホストをサポートしています。SANホストの場合は、SnapInfo設定がボリュームレベルで適用されます。NASホストの場合は、SMB共有レベルでSnapInfo設定が適用されます。

ストレージシステムのIPアドレスをSnapDrive for Windows TPSに追加した場合は、SnapManager for Hyper-Vで設定ウィザードを実行すると、SnapDrive for Windowsのストレージ設定が自動的に読み込まれます。SnapDrive for Windows TPSが設定されていない場合は、SnapManager for Hyper-Vの[Manage Storage Connections]タブでストレージシステムのIPアドレスを指定する必要があります。

手順

1. ナビゲーションペインで、[Menu](メニュー)、[Hosts](ホスト保護)の順にクリックします。
2. SnapInfoディレクトリパスを変更するホストを選択します。
3. [Actions]ペインで、[* SnapInfo settings]を選択します。

[* SnapInfo設定* (* SnapInfo Settings *)]ダイアログボックスが開きます。

4. 表示されたオプションからストレージタイプを選択します。

オプション	説明
SAN	これがデフォルトのストレージタイプです。
NAS	このオプションは、SMB共有で使用します。

5. [* 参照] をクリックします。

[フォルダの参照]ウィンドウが開きます。

6. SnapInfoストレージシステム (SAN) またはボリューム (NAS) を選択し、* OK * をクリックします。

表示されるホストは'ホスト・レベルで[ストレージ接続の管理]オプションを使用して登録されたストレージ・システムに対応するNAS共有です探している共有が表示されない場合は、「ストレージ接続の管理」が正しく設定されていることを確認してください。

7. [* SnapInfo設定* (* SnapInfo Settings *)]ウィンドウで、[OK]をクリックします。

データセットを設定する

保護のニーズに基づいて、データセットを作成、変更、表示、削除できます。

データセットの作成要件

データを保護するためにデータセットを作成する場合は、特定の要件を満たす必要があります。まず、Hyper-V用のSnapManager にホストまたはホストクラスタを追加してから、ホストまたはホストクラスタに仮想マシンを追加する必要があります。

データセット名と概要

データセットに名前を付けるときは、サイトで命名規則を使用して、管理者がデータセットを検索して特定できるようにします。使用できる文字は次のとおりです。

- a ~ z

- A~Z
- 0~9
- _ (アンダースコア)
- - (ハイフン)

データセットリソース

仮想マシンなどのリソースをデータセットに追加する前に、Hyper-V用のSnapManager にホストまたはホストクラスタを追加する必要があります。

データセットには、ホスト、専用の仮想マシン、または共有の仮想マシンを追加できます。ホストを追加する場合は、そのホストに属するすべての仮想マシンを追加します。また、異なるホストに属する仮想マシンをデータセットに追加することもできます。仮想マシンは、複数のデータセットに属することができます。



同じホストクラスタに属する専用仮想マシンと共有仮想マシンは、同じデータセット内に存在することはできません。これらのタイプ原因のリソースを単一のデータセットに追加すると、データセットのバックアップが失敗する可能性があります。

仮想マシンとONTAP LUN

構成ファイル、Snapshotコピー、VHDなど、仮想マシンに関連付けられたすべてのファイルは、ONTAP LUN上に存在する必要があります。

データセットのリソース消費量

1つのホストで同時に実行できるアプリケーションと整合性のあるバックアップ処理は1つだけです。同じ仮想マシンが異なるデータセットに属している場合は、アプリケーションと整合性のあるデータセットのバックアップを同時にスケジュールしないでください。この場合、いずれかのバックアップ処理は失敗します。

データセットを作成するときは、特定のONTAP LUN上に存在するすべての仮想マシンを選択する必要があります。これにより、すべてのバックアップを1つのSnapshotコピー内にまとめることができ、ストレージシステム上で消費されるスペースを減らすことができます。

データセットを作成します

同じ保護要件を共有する仮想マシンリソースに対してデータセットを作成できます。必要に応じて、複数のデータセットに仮想マシンを追加できます。

必要なもの

次の情報が必要です。

- データセット名と概要
- データセットに追加する仮想マシンリソース

このタスクについて

同じホストクラスタに属する専用ディスクと共有ディスクは、同じデータセットに配置しないでください。これらのタイプ原因のリソースを単一のデータセットに追加すると、データセットのバックアップが失敗する可能性があります。データセットごとに、NASまたはSANのタイプのVMを1つだけ設定できます。混在モードのデータセットは使用できません。

既定では、データセットの検証チェックボックスがオンになっています。SnapManager for Hyper-Vは、データセットの作成中または変更中に、すべてのVMの構成にエラーがないかどうかをチェックします。データセットの検証を有効にしない場合は、チェックボックスが選択されていないことを確認する必要があります。

手順

1. ナビゲーションペインで、[メニュー]、[保護]、[データセット]の順にクリックします。
2. アクションペインで、*データセットの作成*をクリックします。
3. ウィザードの各ページに情報を入力します。

完了後

次に、作成したデータセットに保護ポリシーを追加します。

データセットを変更する

データセットを作成したら、データセット概要 およびデータセットに関連付けられているリソースを変更できます。

このタスクについて

既定では、データセットの検証チェックボックスがオンになっています。SnapManager for Hyper-Vは、データセットの作成中または変更中に、すべてのVMの構成にエラーがないかどうかをチェックします。データセットの検証を有効にしない場合は、チェックボックスが選択されていないことを確認する必要があります。

手順

1. ナビゲーションペインで、[メニュー]、[保護]、[データセット]の順にクリックします。
2. 変更するデータセットを選択します。
3. アクションペインで、*データセットの変更*をクリックします。
4. ウィザードの手順に従います。

データセットを表示します

データセットに関連付けられている仮想マシンを表示できます。

手順

1. ナビゲーションペインで、[メニュー]、[保護]、[データセット]の順にクリックします。
2. ツリービューを展開して、データセットに属する仮想マシンを確認します。

データセットを削除する

保護ニーズの変化に応じてデータセットを削除することができます。

このタスクについて

データセットを削除しても、そのデータセットに属する仮想マシンは削除されません。データセットを削除すると、そのデータセットに属していた仮想マシンは、別のデータセットに属していない場合は保護されていない状態になります。

手順

1. ナビゲーションペインで、[メニュー]、[保護]、[データセット]の順にクリックします。
2. 削除するデータセットを選択します。
3. [アクション]ウィンドウで、[*削除]をクリックし、[OK]をクリックしてデータセットを削除します。

データセットを削除すると、データセットのメンバーであるすべてのホストからスケジュール済みジョブも削除されます。データセットを削除した場合、SnapManager for Hyper-Vは、同じ名前で作成したとしても、バックアップの保持を管理しなくなりました。

結果

削除されたデータセットに関連付けられているリソースは、別のデータセットに属していないかぎり、SnapManager for Hyper-Vによる保護は解除されます。

ポリシーを設定する

データセットに関連付けられたポリシーを追加、変更、または削除して、データを保護することができます。

データセットにポリシーを追加するための要件

バックアップまたはリストア機能用にデータセットにポリシーを適用するには、特定の要件を満たす必要があります。保持、スケジュール、レプリケーションの各ポリシーを同じデータセットに複数追加することができます。

ポリシー名と概要

ポリシー名と概要。使用できる文字は次のとおりです。

- a ~ z
- A ~ Z
- 0 ~ 9
- _ (アンダースコア)
- - (ハイフン)

バックアップ保持の上限

毎時、毎日、毎週、または毎月のバックアップコピーを削除するまでの最低期間を決定する必要があります。



保存タイプが「無制限」のバックアップは削除されません。

バックアップは、時間または指定した数に基づいて保持できます。たとえば、最新のバックアップを10個保持したり、15日を超過した古いバックアップを削除したりできます。

古いバックアップを保持しているように見える場合は、保持ポリシーを確認してください。Snapshotコピーを共有するバックアップ対象のすべてのオブジェクトが、保持ポリシーによるSnapshotコピーの削除を実行するためのバックアップ削除条件を満たしている必要があります。

スケジュールされたバックアップジョブの名前

スケジュール設定されたバックアップジョブに名前を割り当てる必要があります。

バックアップをスケジュールする権限

データセットのバックアップをスケジュールするには、適切なクレデンシャルが必要です。

同時にバックアップがスケジュールされている可能性があるデータセットの数

同じ仮想マシンが異なるデータセットに属している場合は、同じVMを含む複数のデータセットのバックアップを同時にスケジュールしないでください。この場合、いずれかのバックアップ処理が失敗します。1つのホストで同時に実行できるバックアップ処理は1つだけです。

スケジュールされたバックアップのタイプ

アプリケーションと整合性のあるバックアップとcrash-consistentバックアップのどちらでも実行できます。

バックアップオプション

バックアップ完了後にSnapMirrorデスティネーションの場所を更新するかどうかを選択する必要があります。

更新が成功するのは、SnapMirrorが設定済みで、データセット内の仮想マシンを含むLUNがソースSnapMirrorボリュームに属している場合のみです。

Hyper-V用SnapManager のデフォルトの動作では、1つ以上の仮想マシンをオンラインバックアップできない場合、バックアップは失敗します。仮想マシンが保存された状態にあるか、シャットダウンされている場合は、オンラインバックアップを実行できません。状況によっては、仮想マシンが保存された状態にあるか、メンテナンスのためにシャットダウンされている場合もありますが、オンラインバックアップができない場合でも、バックアップを続行する必要があります。これを行うには、保存された状態の仮想マシンを移動するか、保存された状態のバックアップを許可するポリシーが設定された別のデータセットにシャットダウンします。

Allow Saved state VM backupチェックボックスSnapManager をオンにして、Hyper-Vが保存された状態の仮想マシンをバックアップできるようにすることもできます。このオプションを選択した場合、Hyper-V VSSライターが保存された状態の仮想マシンをバックアップしたり、仮想マシンのオフラインバックアップを実行したりしても、SnapManager for Hyper-Vはバックアップを失敗させません。保存された状態またはオフラインのバックアップを実行すると、原因 のダウンタイムが発生する可能性があります

分散型のアプリケーション・コンシステント・バックアップ機能を使用すると'パートナー・クラスタ・ノード上で実行されている複数のVMがバックアップ・ノードから作成された単一のハードウェアSnapshotコピー内で整合性を保つことができますこの機能は、Windowsフェイルオーバークラスタの複数のノードにまたがるCSV 2.0 Windowsボリュームで実行されているすべてのVMでサポートされます。この機能を使用するには' [Application-consistent] バックアップ・タイプを選択し' [Enable Distributed Backup] チェック・ボックスをオンにします

SnapMirrorバックアップのセカンダリストレージ

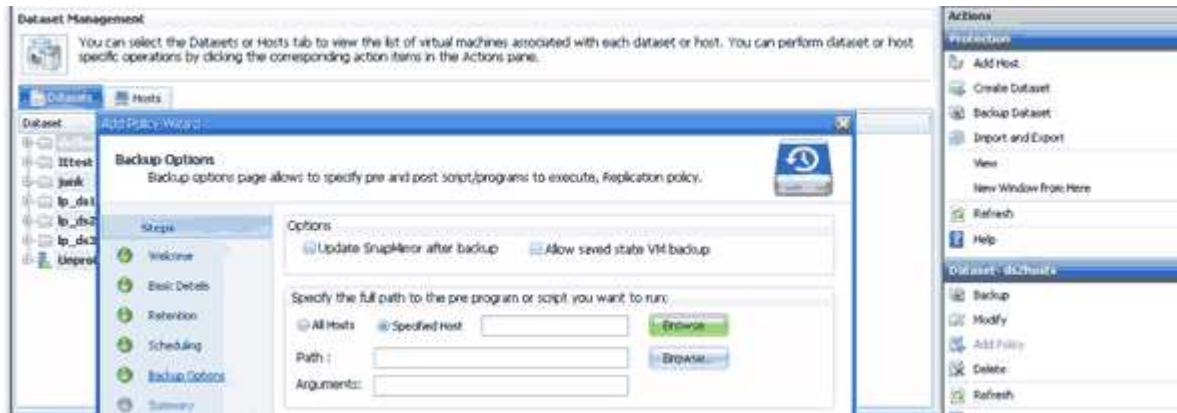
これらのオプションを使用すると、SnapMirror関係に定義されているセカンダリストレージに適用可能なオプションを指定できます。ここでは、* Update SnapMirror after backup *を選択できます。[ボルトラベルオプション (Vault label option)]パネルで、[バックアップ後にSnapVault を更新 (Update after backup)]を選択できます。*バックアップ後にSnapVault を更新*を選択した場合は、ドロップダウンメニューからボルトラベルを選択するか、カスタムラベルを入力する必要があります。

バックアップスクリプト

オプションのバックアップスクリプトをバックアップの前後に実行するかどうかを決定する必要があります。

これらのスクリプトは、特定のサーバを指定しないかぎり、すべてのデータセットメンバーホスト上で実行されます。

バックアップスクリプトは、データセット内の各ノードで実行されます。データセットポリシーを設定して、スクリプトを実行するホストの名前を指定できます。ポリシーは、バックアップ対象のVMが実行されているクラスタ内の各ノードで処理されます。



バックアップのポストスクリプトの引数では、次の環境変数を使用できます。

- ***\$VMSnapshot*** : このバックアップの結果としてストレージ・システム上に作成されるSnapshotコピーの名前を指定します。7-Modeで実行されているONTAP環境でアプリケーションと整合性のあるバックアップを実行する場合は、2つ目の（バックアップ）Snapshotコピーの名前を指定します。1つ目の名前は2つ目の名前と同じですが、_backupサフィックスは付加されません。
- ***\$SnapInfoName*** : SnapInfoディレクトリ名で使用されるタイムスタンプを指定します。
- ***\$SnapInfoSnapshot*** : ストレージシステムに作成されたSnapInfo Snapshotコピーの名前を指定します。SnapManager for Hyper-Vは、データセットバックアップ処理の終了時にSnapInfo LUNのSnapshotコピーを作成します。



\$SnapInfoSnapshot*変数は、専用仮想マシンでのみサポートされます。

- 関連情報 *

["Microsoft TechNet : 「Hyper-V」 "](#)

["ONTAP 9 SnapVault によるボリュームバックアップエクスプレスガイド"](#)

ポリシーを追加します

保持、スケジュール、レプリケーションの各ポリシーやスクリプトをデータセットに追加することで、データを保護することができます。

必要なもの

次の情報が必要です。

- ポリシーの名前と説明
- 保持情報
- スケジュール情報
- バックアップオプションの情報
- バックアップスクリプトの情報

手順

1. ナビゲーションペインで、[メニュー]、[保護]、[データセット]の順にクリックします。
2. ポリシーを追加するデータセットを選択します。
3. アクションペインで、*ポリシーの追加*をクリックします。

Create Policyウィザードが表示されます。

4. ウィザードの手順に従って、データセットの保護ポリシーを作成します。

ポリシーを変更する

ポリシーの変更ウィザードを使用して、データセットを保護するポリシーを変更できます。

手順

1. ナビゲーションペインで、[メニュー]、[保護]、[データセット]の順にクリックします。
2. 変更するポリシーが含まれているデータセットを選択します。
3. 変更するポリシーを選択します。
4. 操作ウィンドウで、*ポリシーの変更*をクリックします。

Modify Policyウィザードが表示されます。

5. ウィザードの手順に従って、データセットの保護ポリシーを変更します。

ポリシーを表示します

特定のデータセットに関連付けられているポリシーの詳細を表示できます。

手順

1. ナビゲーションペインで、[メニュー]、[保護]、[データセット]の順にクリックします。
2. 表示するポリシーが含まれているデータセットを選択します。
3. [Policies]ペインで、詳細を表示する特定のポリシーを選択します。

ポリシーに関する情報が[Details]ペインに表示されます。

ポリシーを削除する

不要になったポリシーはデータセットから削除できます。

手順

1. ナビゲーションペインで、[メニュー]、[保護]、[データセット]の順にクリックします。
2. 削除するポリシーが含まれているデータセットを選択します。
3. [Policies]ペインで、削除する特定のポリシーを選択します。
4. [アクション]ペインで、[削除]をクリックし、[OK]をクリックしてポリシーを削除します。

ポリシーを削除すると、データセットのメンバーであるすべてのホストからスケジュール済みジョブも削除されます。

Hyper-V over SMB用のSVMまたはCIFSサーバを設定

1台のStorage Virtual Machine (SVM) またはCIFSサーバを複数のアプリケーション用に設定すると、リソース共有の問題が発生し、その結果Hyper-V環境に影響が及ぶ可能性があります。要件に応じて、Hyper-V over SMB専用のSVMまたはCIFSサーバを設定する必要があります。

- 関連情報 *

["ネットアップの技術情報アーティクル1015099：「How to set up SVM/CIFS for Hyper-V over SMB」](#)

著作権に関する情報

Copyright © 2023 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。